

〒260-0031 千葉県千葉市中央区新千葉2-17-6
サンコート新千葉102号

TEL:043-301-7262 FAX:043-301-7263

発行責任者：特定非営利活動法人 子ども劇場千葉県センター

2010年1月10日発行 第55号 1部100円 E-mail:kidchiba@lily.ocn.ne.jp



シリーズ1

子どもの権利条約採択から二〇年

理想はどこまで実現したか ・ 何が実現したか



子どもの権利条約が国連で採択されて20年、日本が批准して15年が経過した。この間、子どもと子どもの権利をめぐる状況は、自治体における子どもの権利に関する条例の制定、次世代育成行動計画等、子ども計画の策定、子どもの参画や相談、救済等のとりくみ、NPOによる子どもの権利保障など、条約の理念の実施というところで、積み重ねがあり実態改善につながっている。しかし、これらはまだ少数であり、日本政府や社会全体での消極姿勢もあって、子どもの置かれている現状に対応するには不十分である。

締結国

今現在国連加盟国のうち193カ国が批准している。条約に署名したが、批准していない国は2カ国(アメリカ、ソマリア)

世界の子どもたちの状況

批准後、70カ国が国内の法律を変えた。ユニセフによると、世界では一億人以上の子どもが働いており、5億から10億の子どもが暴力(特に戦争で)を受けている。教育を受けられない先住民と都市部の子どもとの大きな格差、子どもの路上生活、1日10時間の金鉱労働等、過酷な状況におかれている子どもたちがいる。

日本の子どもたちの状況

毎日1.7人の子どもが自ら命を絶ち、3人に一人の15歳児が孤独を訴えている。中学生の不登校率は至上最高を記録し、小学校・中学校・高校での校内暴力事件は2007年には5万件を超え、至上最多となった。また、親の経済的な困難・雇用不安や長期労働等が、これまでになかった子どもへの貧困を生んでいる。

Childrens Rights Childrens Rights Childrens Rights Childrens Rights Childrens Rights Childrens

日本では

1994年に批准後、これまでに3回、日本政府報告書を国連・子どもの権利委員会に提出した。第1回の報告に対し「教育制度の過度に競争的な性格によって、子どもがストレスにさらされ、発達の歪みをきたしている」と懸念・勧告をされた。第2回目も同じ内容の勧告を受け、第3回報告(2008年4月)は、第2回の報告よりも後退し、条約実施の誠実な検証がされているとはいえない。第3回の報告に対しての委員会からの所見は今年4月の予定。

1998年兵庫県川西市で設置された、日本で初めての公的な「川西市子どものオンブズパーソン条例」がある。子どもの権利条約の公的な第三者機関であって、子どもの権利条約が具体的に実施される社会をめざしている。その後、川西市をモデルに、子どもの権利に関する条例が20市で作られ、また多くの自治体が条例作りの検討をすすめている。

Childrens Rights Childrens

千葉県では

「千葉県次世代育成支援行動計画推進作業部会」のもとに設置された「子どもの権利・参画のための研究会」は、「千葉県子どもの実態・意識調査」を行い「子どもが大切にされる千葉県をつくるための指針」として2009年9月、千葉県に報告した。この指針は残念ながら、具体的な県の施策に結びつく正式な指針になることには至らなかった。本文は県のHPで公開されている。

条約の実施を阻んでいる要因

条約に対する政府の消極姿勢。この条約は発展途上国向けの条約であるとして、子どもの立法、行政、司法に生かそうとしない。また、教育関係について特に法令等の改正の必要性はないという認識でスタートしている。

子どもに規範意識を植えつけるとか、上からの健全育成意識が根強くあり、子どもの意見尊重を限定的にしている。

子どもの自己肯定感を励ます支援を

子どもの自己肯定感の急激な落ち込みがあり、若者の問題行動、少年犯罪を見ても「我がまま暴力」から「我がないまま暴力」や、いきなりキレル子現象への変化がみられ、それらに対して子どもへの厳罰化や大人社会の不寛容がある。改めて子どもの自己肯定感を励ます子ども・若者支援が求められている。そして、大人の支援力は、「待つ力」「聴く力」であり、子どもに寄り添う第三者的な「意味ある他者」になることである。

参考文献：子どもの権利研究第15号

(文責：中村)

Childrens Rights Childrens

子どもの現場に関わって感じるのは「子どもの自己肯定感の極端な低さ」



最近、マスコミ等で「今の子どもは何を考えているんだかわからない」とか、「家庭の教育力が落ちてる」とか、「躰がなされてない」とか、子どもを否定するようなコメントが非常に多く出されています。

子どもの現場で関わっている者から言うとして、決してそういう事が本当の問題の原因ではなく、原因は、一言でいうと「今の子ども達の自己肯定感（自己評価、自尊心、セルフエスティーム）の極端な低さ」です。

自己肯定感とは、「自分は生きてる価値がある」とか、大切な存在だとか、生きていていいんだ」という感覚のことです。

そういう感覚が持てなくなっている子どもが多く、特に極端に自己評価が低くなってしまう子どもに、いろんな心配な症状や行動が出てきます。

自己評価・自己肯定感の調査
(平成20年日本青少年研究所調査より)

「自分はだめな人間だと思う」中学生		
アメリカ	中国	日本
14.2%	11.1%	56.0%
「自分はだめな人間だと思う」高校生		
アメリカ	中国	日本
21.6%	12.7%	65.8%

先日講演の後で、質問が出ました。「今の子どもたちに自信がないと言っただけ、私はそうは思えない。むしろ今の子どもたちは大事にされすぎて、甘やかされすぎて、ちやほやされて、オレ様状態になってるんじゃないか。・・・と。私は、むしろ、日本においては、子どもに対する大人社会の眼差しが否定的な見方が多いと感じています。「わがままだとか、甘えてるとか、贅沢だ」とか否定的な言葉を繰り返してきた結果ではないかとお応えしました。

自己肯定感の土台は、乳幼児期に十分甘えさせてあげることが順々に築かれる

「自分は必要な存在だ、大切な人間だ」は私でいいんだ」と感じる気持ちが築かれる



唯一にして最大の課題がこの自己肯定感の問題

子どもの自己肯定感 はなぜ育たないのか どうすれば育つのか

チャイルドライン全国フォーラム 2009 in 千葉
11/21 (土) 千葉O.V.T.A
明橋大二さん記念講演より

のは0歳から3歳、抱っこしてよしよししてもらったり、おっぱいをもらったりして、そういう気持ちを育ててもらったわけです。

それを土台にして、朝起きて夜寝る、トイレに行く、服を着替える、自分と他人の物の区別がつく、順番が守れるなどのしつけ・生活習慣が可能になります。この時期がだいたい3歳から6歳。そして子どもは6歳・7歳くらいになるといろんなことに対する好奇心が出てきます。そういう時に勉強を教えるもらうととも身につきます。しかし、今までの教育や子育てでは、あまりこの土台の自己評価、自己肯定感というものは問題にしませんでした。こういうものは出来て当然、あるのは当たり前という前提の上でなされたわけです。

今までの教育とか子育ては、子どもにどう躰を身につけさせるか、どう生活習慣を身につけさせるか、どう勉強に取り組ませるか、そういうことばかりを問題にしてきました。

土台が低くなっている子はもう一度土台から育て直す



表面上は勉強をやるが気ない、ルールを守らない子のように見えるけれども、実はこの土台が低くなってしまっているのです。表面的なところばかりガンガン叱られると余計に自己評価が下がる。言えはいうほど逆効果になっていく子を見た場合には、「この子はもしかしたら土台が低くなってしまっているのではないかな」と気づいてやって、もう一度この土台から育て直すことです。「どうせ僕なんて」「どうせ私なんて」「どうせ無理」「子どもの口からこの「どうせ」という言葉が出てきたら、そういう子はこの自己評価が低くなりつつあるサインだということに注意していただきたいと思えます。

子どもの話を引き出す聴き方でしっかり聴く



子どもは、話をしっかり聴いてもらえると自分が大事にされていると思えます。自分には大事にされる価値があるからなんだ、と自己評価が育ちます。

子どもが「こういうことで悔しかった」と言ってきたら、「そうか、悔しかったんだね。こういう事で腹が立ったんだって言ってきたら、それが腹が立ったんだね」と同じ言葉で返していく。同じ言葉でも相手から返ってくる。「わかってもらえた」という気持ちになるんですね。

「いじめられるあなたは悪くない」ということが意外に子どもに伝わっていない



いじめは、最初は容姿や能力に対する悪口から始まります。いじめは、いじめられる子が人工的に作り出して、お前はこうだからいじめられる、お前が悪いんだよ、何か文句があるのかよ」と相手に思こませていくプロセスです。

子どもがいじめられると、親はショックを受け、同時に、いじめられている我が子が情けないという気持ちになってしまふことがあります。「もっと強くなりなさい。言い返したらどうなの」「お前もなんか悪いところがあるんじゃないか」と言ってしまう。ところがそういうふうに出るくらいだったら子どもは相談してこない。耐えかねてようやく大人に相談してくるんです。ですから、まず大人は、「いじめられてるあなたはちっとも悪くないんだよ」ということを言ってあげてほしい。この当然のことが案外子どもに伝わっていないのです。

子どものマイナス感情を受けとめ むしろ「いい子」に声かけを!



昔の子育てと今の子育てと明らかに変わった点があるとすれば、大人と子どもが一緒に過ごす時間が昔より少なくなっていることです。社会構造の変化からそうなっているのです。そうなった時に子どもが出てくる行動は、一通りあります。

普段寂しい、不安な分、帰ってきたらギヤールギヤール言っただけで今日あんな事があった、こんな事があったと顔中くしゃくしゃにしてしゃべりまくるタイプ。そういう子は叱られたりするけれど、自分をアピールして気づいてもらえない。マイナスの感情を親にぶつけてそれを受け止めてもらおう。最終的には満足出来ることが多い。

普段寂しい、不安な分、自分がいい子になつて親からほめられることで安心するタイプ。そういう子は親が帰ってきてても、ギヤールギヤール言ったりしない。大人からすると手のかからない子。だからこの子は自分で出来るから大丈夫だと思ってしまう。自分のマイナス部分を出して受け止めてもらったという感覚がないので、本当の自分に対する自信は育っていない。いい子過ぎる子には「何か言いたいことがあるんじゃないの?」と、大人から声をかけてあげる必要があります。

明橋大二さんプロフィール

昭和34年 大阪府生まれ
精神科医 京都大学医学部
卒
現 真生会 富山病院 診療内科
部長。専門は精神病理学
児童思春期精神医療 小児
スクールカウンセラー 法
子相談所 嘱託医。NPO セン
パレットの理事長。著書「子
育てハッピーになる子」シ
リーズ「輝ける子」

子どもの心は、依存と自立の 行ったり来たりで育つ



子どもの心は、依存と自立の行ったり来たりで大きくなると言われています。どうしてこの二つを行ったり来たりするのでしょうか。

まず、赤ちゃんは親に完全に依存した状態で産まれてきます。十分依存して甘えて子どもの心は安心感をもつ。しばらくするとどうも一つ別の気持ちが出てきます。それは、不自由という気持ちです。

依存の世界は、安心ではあるけれど同時にいる縛られて自由にならない、不自由だと思つようになる。そこから自由になりたいと思つようになります。これが自立の世界に向かう意欲です。

そして、自立の世界は、自由ではあるけど同時に不安な世界です。自由と不安の二つは必ずセットです。不安が強くなると子どもは「お母さん!」と依存の世界に戻ってくる。十分依存して甘えて安心感をもつ。子どもが「お母さん!」と言っただけで

「よしよし助けてやる」と言つ、「自分でやる」と言つたら「じゃ、自分でやってみよう」とやらせてやる。

ところが実際は、子どものペースではなく大人の都合になりがちです。子どもが「お母さん!」と寄ってくる。ところがお母さんは「忙しいんだから自分で出来るでしょ。自分でやりなさい」と言ってしまう。また、子どもが自分でやるうとしていけると、時間がない時、「もう、お母さんに貸しなさい。あんたまだ子どもだから出来るはずないでしょ」と言ってしまうんですね。本来はどつあるべきかという、子どものペースで依存と自立を行ったり来たりできることが大事です。

甘えない人が自立するのではなく 甘えた人が自立する



「甘えさせること」と「甘やかすこと」は違います。「甘えさせる」は「抱っこして!」「話を聞いて!」という情緒的な要求。「甘やかす」は「ものを買って!」「お金貸して!」という物質的な要求への大人の応え方です。十分甘えさせてあげられなかったのは、決して親の愛情不足とかでなく、例えば子どもが小さい時に両親が朝から晩まで働き詰めで、つい子どもにかまっていられないで、なかなか甘え上手という場合もあります。

2歳・3歳までに限らず、少なくとも10歳くらいまでは、しっかり甘えさせていい。子どもが不安になった時に、甘えを受け止めてもらうことは大変なことです。

「ありがとう」は、相手の存在価値を 高める言葉



今の子どもたちは、学校に行ったら人間関係にも「よく気を遣って頑張っています。そういう子どもに対して「頑張れ!」ばかりではなくて、「頑張ってるね」「よく頑張ったね」と言つ方が返って元気が出る時があります。

案外大人から子どもに「ありがとう」を言っていないですね。子どもには「ありがとうは?」「ありがとうって言いなさい」と求めますが、ちょっとしたことでも、ありがとう、助かったよ」と声をかけていくことによつて自己評価・自己肯定感が育まれ、初めて、勉強しようと思えたり、ちゃんとルールを守るうと思えたりする土台になるのです。

今を生きる子どもたちは、こうした時代だからこそ、子どもなりの困難・辛さ・痛みがあるのです。そういう中を一生懸命生きている子どもたちの痛みを理解し、辛さを労い、支えていくことによつて、子どもの生きる力を引き出すことができます。

それにしてもなかなか子育ては 大変です



こつこつ話を聞くと、そつや、その通りだ。家に帰ったらきちんと子どもをほめてやる。抱っこしてやる。こつこつに思つて帰っていくわけですが、ところが家の敷居をまたぐやいなや、またこんな事もしたらんの。何度言ったらわかるの?とカーッとなくなってしまふ。キレるっていうのは少なくともそれだけ子どもに関わっている証拠なんです。それだけ一生懸命毎日毎日子どもに関わつて、ああしたらこつこつしたらと心配し、関わっているからこつこつかなかなと思うようにならなくてキレるんです。

こつこつことも含めて、子どもと共に親御さんを支えていくことが大事です。まずこつこつまで育ててきた苦労を労う。一人ぼっちで誰の助けもない中、24時間子どもに関わっている親御さんには、一生懸命子どもに関わってきた。よく頑張ってきた。辛かったね」と労う。こつこつことが私はものすごく大事なんじゃないかなと思つたんです。

子どもは地域の宝、国の宝と良く言われます。子どもが宝とするならば、それを育てているお母さんもお父さんも国の宝であるはずですよ。その宝をみんな支え、応援していきましょう。

(文責:岡田 チャイルドライン全国フォーラム2009 in千葉 記念講演より抜粋)

11月23日(月祝)きぼーる 1F.3F.4F
「子育てふれ愛フェスタ 2009」の中で4企画9ステージを実施、のべ338人が参加。
1Fきぼーるの広場にて、活動紹介のパネル展示やリーフレットを配布し、身近に活動する「子どもNPO」のネットワークをアピール。

実施：NPO法人子ども劇場千葉県センター
千葉県子ども交流館
連携：NPO法人千葉中央おやこ劇場
千葉北おやこ・みる・あそぶ会
千葉西おやこ劇場
NPO法人子どもユニット Wakaba
NPO法人緑区子ども館 センター
NPO法人四街道子どもネットワーク

おやこでミュージカル体験
＜オールスタッフ＞



講師：勝部祐子 池田和 大浴ちひろ
2回 参加数：30人
「うたえパンパン」の曲を使って、グループで相談しながらお芝居とダンスを作って発表。

・最初ははずかしかったけど、どんどんやっているうちにはずかしいのがなくなった。
・みんなで協力してでき、みんな自然と笑っていて楽しかった！
・すごく緊張した。お姉さんに「どうだった？」ときかれて泣いてしまった。お姉さんが肩をだいてくれた！

うつつて、うつつて、影あそび広場
＜劇団かかし座＞



講師：関(ねや) 幹男
2回 参加数：72人
舞台でやる手影絵を紹介、想像が広がる。影絵を自分で作って関さんに相談。「絶対にやってあげるよ」と、動くようにしてくれるプロの技にびっくり。最後に見せあいっこ。

・型を切るのは難しかったけれど自分で工夫できたことがおもしろかった。
・スクリーンに映して、お話しした時に、みんながおもしろいって言ってくれたことがうれしかった。また、やりたい。

千葉市会場



講師：YEN TOWN FOOLS ブッチー
3回 参加数：140人
子どもたちと、ユーモアたっぷりな会話のやりとりをしながら、色とりどりの風船でねずみ、うさぎ、お花、弓矢と次々につくった。

バルーンであそんじゃおー
＜蒼い企画＞



・わからないとブッチーさんが来てくれて、みんなちゃんとしてくれてよかった。
・バルーンはもっと練習したら、うまくつくれそうだった。楽しかった。
・風船が割れそうでねずみのこわいな、でも自分で作らなければならぬので、ドキドキしながらつくったよ。

チャンバラ教室
＜劇団潮流＞

講師：杉本泰之 大石智弥
2回 参加数：52人
本格的なチャンバラ体験。新聞紙を丸めた刀でかまえ方、つばぜり合い、受け流し、斬る、斬られるなどの型を教してもらい、さあ、真剣勝負！免許皆伝、免状をもらった、子どもたちの演技はなかなかのもの。



・はじめてチャンバラをやったからドキドキした。本気で刀(新聞紙)を振りますことができてたのしかったので、またやってみたい。
・ほんとは、もっともっと戦いたかった。
・お兄さん達がやった演技、とてもすごかったし、かっこよかった。
・時代劇をやってみよう。

竹林整備 楽器作りと文化体験
竹にふれる!竹で作る!竹をかなでる!
＜NPO 法人日本青少年音楽芸能協会＞

竹林整備・パンブーダンス
竹林整備指導：飯島農園のみなさん
講師：まのけんいち
参加数：30人
自分たちが切った竹を使ってパンブーダンスに挑戦！



できた楽器でみんなで演奏。たのしかった。

サンポーニャづくり
講師：牧野俊浩
参加数：21人

実施：NPO 法人日本青少年音楽芸能協会
NPO 法人子ども劇場千葉県センター
NPO 法人船橋子ども劇場
連携：船橋市内のNPO

打楽器(ギロ)づくり

講師：玉木孝治 参加数：27人
切り出した竹の1節1節がギロ口になった。

・竹でギロが作れるというのにおどろいた。
・溝をほるのが大変だったけど楽しかった。



トンガリ体操

講師：GIGA 樋口春香・竹内くみこ
参加数：8人
心も体もほぐれて、曲に合わせてのりのりに体を動かした。

年齢を問わずみんなで楽しんだ！

ケーナづくり

講師：まのけんいち
10/31 参加数：16人
11/1 参加数：9人

作ってよかったなあとおもったし、一生もの！

ジャグリング

講師：TOTTA(クラウンパラダイス)
参加数：14人
赤い鼻をつけて夢中にジャグリングに取り組んだ。

家でもっと練習して次来たときにできるようにする！

マジック

講師：伊藤夢葉
参加数：11人
簡単そうでむずかしかったマジック

バリ舞踊

講師：林田圭緯子
参加数：13人
衣装もつけて気分はバリ

普段の生活の中でなかなかふれることが出来ないことに挑戦

ウクレレ演奏

講師：かのんぷ
参加数：14人
幸せな時間が流れた

ガムランや、バリ舞踊、ウクレレも初めてやってみた。簡単そうでむずかしかったけど、どれもみ～んなおもしろかった。

ガムラン演奏

講師：中田一子 前田達彦
参加数：14人
不思議な音色に浸った

交流コンサート

参加数：53人
サンポーニャ・ウクレレ成果発表コンサート
ビブラフォン・打楽器：玉木孝治、ギターとボーカル：かのんぷ、ボーカル：牧野俊浩
ガムラン演奏とバリ舞踊：中田一子、前田達彦、林田圭緯子兄弟デュオ：ファミリーおかだ兄弟



子どもの舞台芸術体験広場inちば

参加者：573人 プロの芸術家に出会って
とことん遊びこんだ1日

地域がつながるとりくみ

子どもたちが舞台芸術にふれる機会を子どもNPO、地域、行政、創造団体との連携や協働で創り、会場提供、地域・学校への広報周知やスタッフの参加等、それぞれの立場、役割を生かして実現することができました。特に、千葉市から、実施企画への理解・会場提供を得て、たくさんの親子が参加できたとりくみとなりました。今後子どもたちにとって舞台芸術との出会いが不可欠であることを理解する大人を地域に増やし、子ども施策に反映されるように一歩ずつすすめていきます。

思いっきり遊び、自らの可能性を広げていく舞台芸術

子どもは多様な体験を通して心身ともに豊かに育っていきます。なかでも舞台芸術との出会いは、豊かな感受性をはぐくみ、豊かな人間力に影響を及ぼします。プロの舞台芸術家との出会いは、プロならではの技や力量が子どもの想像力や創造力を活性化させます。知らない世界にふれたり、楽しいと感じたり、自分でもこんなことができるのだと発見したり、自ら可能性を広げていくことができます。今、子どもたちの日常は、学習や習い事で学び得ていくこと(インプット)がほとんどです。人間が呼吸するように、吸ってばかりでは苦しいものがあります。子どもたちにとって、思いっきり遊ぶ、自分を表現すること(アウトプット)が大切であり、必要です。

・自分で作った楽器で演奏したことがとってもうれしかった。
・プロがそるっての演奏は圧巻。出演者の皆さんの歌声や演奏がとってもすごかった。また、聞かせてください。
・音楽の音がこころいっぱい響いた。

『第6回チャイルドライン全国フォーラム 2009in 千葉』が開催されました



開催日時: 2009年11月21日(土)~22日(日)

場所: (財)O.V.T.A (国際能力開発センター)

主催: 認定特定非営利活動法人チャイルドライン支援センター
特定非営利活動法人子ども劇場千葉県センター

テーマ: チャイルドラインは子どもの声を受けとめ、地域をつなぎます

参加者: 延べ1,000人

11月21日(土)

チャレンジ・ミュージカル

「サバンナ! SAVANNA!」

基調報告 清川輝基氏

(チャイルドライン支援センター代表理事)

記念講演 明橋大二氏

(精神科医 スクールカウンセラー)

シンポジウム

シンポジスト

明橋大二氏 (精神科医 スクールカウンセラー)

上山静一氏 (イオン株式会社環境アドバイザー)

松島隆一氏 (千葉市子ども家庭福祉課 課長補佐)

吉原 廣氏 (市川市民文化ネットワーク代表理事)

岡田泰子氏 (子ども劇場千葉県センター理事長)

コーディネーター

清川輝基氏 (チャイルドライン支援センター 代表理事)

11月22日(日)

テーマ別分科会

子どもについて考えよう

子どもの参加・参画「ミニいちかわ」「ミニさくら」

徹底討論・・・NPOの社会的使命とチャイルド

ラインの果たす役割

これからのファンドレイジング

守秘義務と子どもの声の社会発信

チャイルドラインのデータをどう読み解くか

性の電話を受けとめる

チャイルドライン開設から10年目を経た、記念すべき節目のフォーラムを、千葉県で開催しました。

このフォーラムでは、今を生きる多様な子どもの姿を共有し、チャイルドライン、地域、企業、行政、NPOができること、連携できることなどを多角的な視点で話し合うことができました。また、各セクターが取り組んでいる子ども支援の活動や意見交換から、地域で様々な人がつながっていくことの大切さを改めて認識することができました。

10周年事業の締めくくりとして開催されたこのフォーラムを機に、チャイルドラインに電話してくる子どもたちの状況を踏まえた対策が、緊急アピールとして提案され、NEXT10に向けて決意が確認されました。

緊急アピール全文

日本の子どもたちは、今、これまでになかった苛酷な環境の中で育つことを強いられています。子どもの貧困率は、世界の先進国の中で群を抜いて高く、一日の唯一のまともな食事が学校給食だけ、という子どもも珍しくありません。また世界一のメディア漬けが進行する中で、生身の人間のぬくもりよりも無機質なメディア機器との接触が増えた子どもたちは深い孤独の闇に迷っています。毎日1.7人の子どもが自ら命を絶ち、3人に1人の15歳児が孤独を訴えています。中学生の不登校率は史上最高を記録し、小学校、中学校、高校での校内暴力事件も年々増え、2007年には5万件を越え史上最多となりました。子どもたちは、こうした形で「生きにくさ」「育ちづらさ」を表現しているのです。

こうした状況の中、無料でかけられる電話に踏み切った全国のチャイルドラインには、子どもたちの声が年間18万件以上も寄せられています。日々子どもたちの声を受けとめている私たちは、日本の子どもたちの「生きにくさ」「育ちにくさ」をこのまま放置することは絶対に許されないと考えます。そして、チャイルドラインに電話してくる子どもたちの状況を踏まえて、私たちは次のような対策が緊急に必要なだと考え、子どもに関係するすべての人々に訴えます。

その一つは、乳幼児からの育児支援の必要性です。親の子育て力の低下はストレートに子どもたちの自己肯定感の低下や親子の愛着形成不全につながっています。乳幼児期のきめ細かな育児サポート体制を地域社会で確立することが緊急に必要です。

二つ目が、貧困の連鎖を断ち切るための施策です。親の経済的な困難が、子どもたちの心身の発達を著しく歪めています。不安定雇用や長時間労働が子どもたちの孤独感を深め、安らぎを奪っています。親の経済格差が子どもの教育格差となり貧困や反社会行動が再生産されることはなんとしても防がなくてはなりません。

三つ目が、「子どもの権利条約」を学ぶ機会の設定です。大人も子どもも、子どもがひとりの人間として様々な権利を持つ主体であることを知る必要があります。教師も含めて子どもの問題に関わる大人たちが、「子どもの権利」について学習し、家庭・学校・地域、あらゆる場面で子どもの声に耳を傾けることが当たり前の社会を目指す第一歩を踏み出しましょう。

今年は『子どもにとっての最善の利益を保障することは大人たちの責務』と謳った「子どもの権利条約」が国連総会で採択されて20年、日本が批准して15年の節目の年に当たります。今回、チャイルドライン支援センター10周年事業の締めくくりとして行われる全国フォーラムを機に、日々チャイルドラインに携わり誰よりも子どもの現実を肌身に感じている私たちは、それぞれの地域で多くの人々と手をつなぎ、子どもにとっての最善の利益を目指す取り組みの先頭に立つことを改めて確認し、その決意をここに宣言します。

2009年11月21日第6回チャイルドライン全国フォーラム2009in千葉 実行委員長
認定特定非営利活動法人チャイルドライン支援センター 代表理事清川輝基

『赤い鼻をつけて』

ブッチィー（シアタークラウン）



僕はクラウンです。赤い鼻をつけて、大げさなメイクアップをして、デフォルメされた衣装を着て、大きな靴を履いて、皆さんの前に現れます。

ピエロと呼ばれることが多いのです。クラウンとよばれても、ピエロとよばれても、『道化師』という意味であるならば、僕はさほど問題では無いと思っています。

よく尋ねられます。どうして、赤い鼻をつけているの？ どうして、顔に色を塗っているの？ どうして大きな靴を履いているの？ これは、一つの答えですべて答えられると思っています。『会った時にすぐ仲良くなれるから。』

メイクアップや衣装を着ていないと、初めて皆さんにお会いしたとき、僕が誰で、どんな人なのか自己紹介がすることが必要です。でも、クラウンの格好をしていると、初対面でも僕の名前すら関係なく、すぐにお話できるんじゃないかなと思っています。

もしかすると、衣装やメイクアップを無くしてしまっただけでもクラウンの象徴である、赤い鼻をつけているだけでも同じ効果があるのではと思っています。

あるヨーロッパの偉い演出家は『クラウンの赤い鼻は世界で一番小さな仮面である』と言った位ですから。

僕は、仲間の『びり』と二人でクラウンの舞台作品を創作しています。大人と子どもと一緒にみて、一緒に安心して笑って楽しめるステージを創作するのが僕たちの仕事です。

誰かが傷つくような笑いではなくて、優しい気持ちになれるような笑い。終演後に、ついまねをしたくなる様な、家に帰って、ご飯を食べながら僕たちのコメディが話題になるような、そんな作品を創りたいと思っています。そして、イルカが疲れている人を癒やしたりするように、楽しい気持ちになりたい人達が、僕達に会いに来たり、僕達が会いに行ったり、そんな事も、特別な事ではなく、ごく当たり前のことになればいいな。クラウンが側にいるだけで、楽しい気持ちになってくる。そんな存在になればと、いつも夢想しているのです。

NPOではたらく人

『組織基盤強化の出発点は“振り返り”』

特定非営利活動法人パブリックリソースセンター プログラムオフィサー
田島 明日丘（たじま あすか）



学生時代にボランティアとしてNGOに関わり、活動の意義と素晴らしさを感じる一方で、慢性的な人材不足、不安定な活動資金源などNPO/NGOの組織運営における舵取りの難しさを感じたことが、NPOの組織基盤強化の支援やその仕組み作りに携わるようになった最初のきっかけです。現在は、NPOのマネジメント支援やNPOマネジメント講座の運営などを担当しています。

私たちが支援するNPOの多くは、活動資金が足りない、人が足りないなど、常にリソースの欠如に直面しながら活動を続けています。こうした現状を踏まえた組織基盤強化には、最初のステップとして「組織診断」が有効で、組織診断とは、自らの組織を「振り返り」、組織が抱える「問題・課題を抽出する」ためのプロセスです。

組織診断では、大きく次の3点が重要なプロセスとなります。

1. ミッションやビジョンに基づく組織の「ありたい姿」の確認
2. 組織に影響を与える外部環境変化の把握
3. 組織の持つ「強み」と「弱み」の把握による現状分析

これによって、「ありたい姿」と組織の現状との間にある差（＝ギャップ）、つまり組織の抱える問題、解決すべき課題が抽出されます。さらに抽出された課題の「優先順位をつける」ことによって、次のステップである「計画づくり」、その先の具体的なアクションにつながります。

今回、子ども劇場千葉県センターさんにも組織診断を受けていただきました。県内の子どもNPOとの連携や関連組織・行政との協働を進めるネットワーク力、新規事業を開発し取り組む力、高い専門性と何よりも活動に対する熱意が組織の強みとしてあげられます。今後は、多様な財源の確保、新たな事業展開などに取り組みれることが期待されます。今回の組織診断結果をぜひ活用していただき、千葉県センターさん自身の組織基盤強化と活動の継続により、他の子ども劇場や子ども支援NPO全体のさらなる活動の発展と飛躍につながることを願っています。



けいこのお稽古日記 子ども文化最前線

— チャレンジ・ミュージカル「サバンナ」に参加して —

子ども劇場千葉県センター理事 滝口 淳子

僕はけいこ、小学3年生。ある日お母さんが「けいこ、夏休みが始まったら、市川のミュージカルのお稽古に通って11月に舞台上で踊ろうよ。かっこいいよ！」と言った。ミュージカルって何？でも電車に乗って行くらしいし、歌もダンスも大好きだからまっいいかぁ！こうして僕と「サバンナ」は出会った。



7月 日 初稽古は上野動物園、「サバンナ」には、たくさん動物が出てくるので本物を見ている感じだ。でも僕はライオンが怖かったのでそばにいかなかった。

7月×日 ぼくのサポーターはTお兄さん。ぼくと同じ小学生もいるが大きいお兄さんお姉さんがいっぱい。前で先生たちがお話しているけど、ぼくは、あちこち走り回っていた。サポーターのTお兄さんが一緒についてきてくれた。音楽のない振り付け練習はよくわかんない。Tお兄さんが困った顔で僕を見ている。（けいこは「ここはどこ？何が始まるの？」不安だからじっとしていらなくて走り回っていた。稽古場に階段のセットを設置したときも気になって何もできない。でも、担当のサポーターの若者がいつも一緒にいる。けいこが何を感じているか思いを馳せ、受け止め、一緒に笑う、そして、安心できるパートナーになっていく。）

8月 日 僕はサル役だ。男の子ばかりだ。ぴかちゃんと一緒にミツバチがよかったなあ。象、キリン、シマウマ、ウサギ、フラミンゴ、いしがめ、ミツバチ、ジャッカルの動物が出てくる。お稽古を待っていて、みんなの踊りも覚えちゃった。のっしのっし歩きたいしがいっぱい。僕も真似しようっと！もちろん、サルもまかせてね。（何回も出ているお兄さんお姉さんたちはすごい。踊りもかっこいいし台詞も上手。大人のダンス、チョーかっこいい！あんなふうに踊りたいなあ...と、みんなの真似をしながら自由に体を動かしている。ここは、自分の感じるままに動いてもいいところ、でも、みんなで一つなのだと、感じられるのが不思議。）



9月 日 歌やおどりがいっぱい。「サバンナ」の中の歌みんな覚えたよ。みんないっしょに歌って踊る。とっても楽しい。ダム工事の歌「ガンバガンバ！」ってとこ気に入った。ダンスは「ガッツだぜ！」一番前の列。『パリッパリッコサカナテ』スワヒリ語の歌だよ。（ゴスペル「JOY」もチャレンジ。説明を聞くときはじっとしていなかったが、歌うときは元気いっぱい、のりのりで踊っていた。）

ミュージカルって心がわくわくして熱くなる。気持ちいいものだと肌で感じているようだ。細かい指示なんてない、ダンスの振りも台詞も子ども達の状態をみてどんどん変化させる柔軟な指導者、見守るスタッフや親たち、ここ大人はちょっと違うな。）

10月 日 みんなが素敵な衣装を着た。僕もサルの衣装を着た。気持ちもサルになってきたみたい。（かっこいいサルにならなくちゃ、と気持ちが弾んでいる様子。先生たちの気合も伝わってくる。稽古もドラムなどの生演奏に合わせて、全員でやったら迫力！）

10月×日 初めての舞台げいこ。上を見てびっくり！ライトがいっぱい！前には席がたくさん並んでいる。（案の定、天井や客席をじーっと見つめ、興味津々。アフリカの太鼓ジャンベの音が会場に響いて、とってもわくわくしてきた。）

11月 日 本番だ。たくさんのお客さんが来ていた。僕は最初ちょっと緊張して下向いていたけど、すぐ前を見たよ。パパも見つけた。すごく楽しかった。「サバンナ」またやりたい。ミュージカル大好き！舞台上で歌って、踊ってしてみたい。最高！（彼が、初めて「またやりたい」と言った。居心地のいいところを見つけたらしい。）

母の独り言

何らかの障がいを持っていると、無理解、不理解が少ない世の中や、わからないことやできないことに向き合っていく日々と、気持ちが縮み、自分を出すことにも臆病になってしまうことがある。でもここは違う。ありのままのあなたを必要とする場。だからみんな輝き、最高の自分自身を披露できる。お互いが楽しくなるために。みんなの笑顔を見るために。

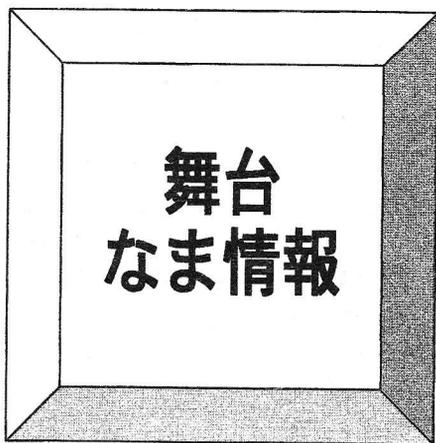
慧悟は、このミュージカルからたくさんパワーを受け取った。久しぶりに会った心理の先生がその成長に驚いて、「『自分は大丈夫、失敗してもやり直して出来る』と思う力強さを感じる」と言った。

慧悟の心にたくさん贈り物をしてくれた先生、サポーター、スタッフ、出演者に心から感謝。

（5ヶ月間の稽古の様子や気持ちを本人に代わって母が書きました。）

編集後記 2010年、新しい年を迎えました。厳しい社会情勢の中、すぐに成果の出ることばかりに目を奪われがちです。今、子どもが子どもらしく輝き、豊かな子ども時代を生き生きと笑顔ですごせるために、私たち大人は何ができるのか真剣に考えなければいけない時ではないかと思えます。今年もどうぞよろしくお祈りいたします。（森本）





- 県内の子ども劇場の鑑賞会で観たい作品がありましたら直接その団体にお問い合わせください。
- 下見等については千葉県内の申し合わせ
 - ・役員の下見は5名まで無料
 - ・その子どもは1人1,000円
 - ・その他は1人2,000円
(子ども、おとな同額)



第55号別冊 <2010年2月~4月>

舞台劇

団体名	作品名	日程	開演時間	場所	主催団体	観客対象
◇ 演劇企画くすのき	宮沢賢治「語り芝居」	2/6	18:30	モリシアホール	ならしの	小3以上
◇ アートインAsibina	だいきらい	2/14	16:45	成田市保健福祉館	成田	小学生以上
◇ アフタフーパーバン	にこにこ山はたいへんだ!	2/21	13:00	船橋市浜町公民館	船橋	幼児~小2年
◇ 劇団風の子	なんかよーかい	3/13	13:00	船橋市東部公民館	船橋	小6まで
◇ 演劇人 冒険舎	オニガラ	3/14	15:00	浦安市民プラザWave101	浦安	幼児~大人
◇ イッツフォーリーズ	ファール昆虫記	3/14	17:00	佐倉市民音楽ホール	佐倉	4歳~大人
◇ げきだんはてな	いきてよかった	3/14	未定	稲毛サティ文化ホール	千葉西	高学年
◇ 劇団風の子九州	なんなんなんでマン	3/19	18:00	市川市文化会館大会議室	市川中央	幼児~大人
◇ 劇団風の子	小さい劇場「いやだいやだのペンペペー」	4/4	未定	稲毛サティ文化ホール	千葉中央	幼児と大人

人形劇・影絵劇

団体名	作品名	日程	開演時間	場所	主催団体	観客対象
☆ 人形劇団ひぼぼたあむ	かえるくん・かえるくん	2/21	11:15	市川市行徳公民館	市川行徳	幼児・大人
☆ 人形劇団ひぼぼたあむ	チップとチョコ	3/20	15:00	市川市文化会館大会議室	市川北	幼児~大人
☆ くわえ・パペットステージ	ともたちはブブとト	3/20	11:00	白井市文化会館中ホール	白井	乳幼児~低学年
☆ 人形劇団むすび座	地獄八景亡者戯	4/25	17:00	船橋市きららホール	船橋	全学年

音楽

団体名	作品名	日程	開演時間	場所	主催団体	観客対象
♪ アスキャップ	冬眠ピアノ お目覚めコンサート	3/14	11:00	新習志野公民館	ならしの	幼児~小2

芸能・他

団体名	作品名	日程	開演時間	場所	主催団体	観客対象
◎ 青い企画	YEN TOWN FOOLSびりとブッチーのクラウンギアター	2/7	14:00	四街道公民館	四街道	幼児~大人
◎ 荒馬座	嘶そう 踊ろう 芸能ひろば	2/14	13:40	美浜文化ホールリハーサル室	千葉西	幼児以上
◎ TAP DO!	タップダンスエンターテイメントショー〜リズム&コメディ〜	4/18	未定	市川市市民会館ホール	市川北	低学年
◎ 青い企画	YEN TOWN FOOLSびりとブッチーのクラウンギアター	4/18	11:00	鎌ヶ谷市総合福祉保健センター	鎌ヶ谷	幼児~大人
◎ だるま食堂	日常音楽コント暮らしのト長帖	4/25	19:00	八千代市勝田台文化センター	八千代	高学年

活動	日程	場所	主催団体
・親子サークル「プレンジⅡ」	2/1・15.3/8・15	市川市東部公民館	市川北
・乳幼児をもつ親のしゃべり場「こーひーかつぶ」	2/1・15.3/15	市川市中央公民館菅野分館	市川北
・幼児サークル どんぐりくらぶ 散歩	2/2	白井市内公園他	白井
・おしゃべりホットスペース「ぶらっとhome」	2/3・10・17・24.3/3・10・17・24・31	市川市大野地域ふれあい館	市川北
・未就園児と親のワークショップ おやこリズム体操	2/4・12・18・26.3/4・12	千葉市文化センター第2リハーサル室	千葉中央
・幼児サークル のびのびキッズ玉造	2/4・18.3/5・12	成田市玉造公民館	成田
・幼児サークル のびのびキッズ福祉館	2/4・18.3/4・11	成田市保健福祉館	成田
・幼児サークル わくわくキッズ	2/4・25.3/4・11	市川市勤労福祉センター	市川中央
・幼児サークル ぴよんぴよんキッズ	2/4・25.3/4・11	市川市信篤公民館	市川中央
・クレヨンクラブ木曜日	2/4・25.3/11	市川市行徳公民館	市川行徳
・母と子のほっとスペース はっぴいスペース	2/4・18.3/4・18.4/1・15	千葉北おやこみるあそぶ会事務所	千葉北
・幼児サークル わいわいキッズ	2/5・19.3/5・19	市川駅南公民館	市川中央
・幼児サークル「ブランコ」おやつ調理実習	2/5	鎌ヶ谷市東部学習センター	鎌ヶ谷
・乳幼児とお母さんのたまり場「たまごキッズ」	2/5・12・19・26.3/5・12・19.4/9・16・23・30	四街道地区コミュニティーセンター	四街道
・クレヨンクラブ火曜日	2/9・23.3/9	市川市行徳駅前公園研修室	市川行徳
・幼児サークル のびのびキッズ江弁須	2/9・23.3/2・9	成田市江弁須区民館	成田
・未就園児とお母さんのためのあそび場	2/9・25.3/4・16	袖ヶ浦市神納コミュニティーセンター	袖ヶ浦
・手遊びうたと親子体操	2/10・24.3/10・24.4/14・28	習志野市内公民館	ならしの
・幼児サークル どんぐりくらぶ バレンタインチョコ作り	2/10	白井市内	白井
・乳幼児とお母さんのたまり場「たまごキッズ」	2/10・17.3/10・17	四街道さつき幼稚園	四街道
・親子サークル「プレンジⅠ」	2/12・26.3/5・12・15	市川市曾谷公民館	市川北
・ファールフェスタ	2/13	佐倉市志津コミュニティセンター	佐倉
・わらべうたであそぼう	2/18	八千代市文化伝承館	八千代
・幼児サークル「ぶらんこ」	2/19	流山市内公民館	流山
・幼児サークル どんぐりくらぶ 白鳥を見にいこう	2/23	白井市内清水口	白井
・2歳～未就園児体験あそびの会 Active Kids	2/25.3/11.4/8・22	千葉北おやこみるあそぶ会事務所	千葉北
・幼児とお母さんのための体験と交流のひろば「ままんべいび」	3/2	袖ヶ浦市平岡公民館	袖ヶ浦
・幼児サークル どんぐりくらぶ 人形制作	3/2・10	白井市内七次第一公園	白井
・幼児サークル「ブランコ」お母さんのためのストレッチ教室	3/5	鎌ヶ谷市内公民館	鎌ヶ谷
・幼児サークル「ブランコ」茶話会	3/19	鎌ヶ谷市内公民館	鎌ヶ谷
・くぼたまさとさんによるわくわく工作教室	3/29	佐倉市志津コミュニティセンター	佐倉
・くぼたまさとさんによるわくわく工作教室	3/30	佐倉市立美術館	佐倉
・子育て支援 ぶらっとたまり場 はっぴのおうち	毎週火・水	こどもユニットWakaba事務所	Wakaba



乳幼児の活動

	活動	日程	場所	主催団体
いろいろ体験活動 	▪ 放課後子ども教室「出会い体験夢ひろば」	2/3・5・10・12・17・19・24・26	四街道地区コミュニティーセンター	四街道
	▪ ママたちのエアロビサークル シェイク	2/5・19.3/19	市川市曾谷公民館	市川北
	▪ 土曜あそび塾『毛糸であそぼう』	2/6	緑区子どもサポートセンター事務所	緑区子どもS・C
	▪ おもちつきだよ、忍者だよ	2/11	いちかわ市民キャンプ場	市川北
	▪ 凧上げと「オニガラ」事前会	2/11	浦安総合公園	浦安
	▪ お菓子の家作り	2/17	佐倉市臼井公民館	佐倉
	▪ 中高青年サークル 大運動会	2/21	印西市中央公民館	いんざい
	▪ 月例自然体験活動Sun2Go2あそぼうズ	2/21.3/14	若葉区山崎さんちの空き地	Wakaba
	▪ あそびの会「おひなまつり」	2/27	千葉北おやこみるあそぶ会事務所	千葉北
	▪ みんなで一緒にもちつき	2/28	八千代市内村上正覚院	八千代
	▪ お菓子の家作り	2/28	印西市そうふけ公民館	いんざい
	▪ 絵本の森	2/未定.3/未定.4/未定	美浜保健福祉センターホールシア活動室	千葉西
	▪ 放課後子ども教室「出会い体験夢ひろば」	3/3・5・10・12・17・19	四街道地区コミュニティーセンター	四街道
	▪ 忍者修行	3/6	南大野商店街	市川北
	▪ 忍者修行	3/6	行徳駅前公園	市川行徳
	▪ 土曜あそび塾『野草の天ぶら』	3/6	昭和の森	緑区子どもS・C
	▪ 大学生による親子クッキング	3/14	印西市内	いんざい
	▪ たき火でパウムクーヘンを焼こう!	3/17	若葉区山崎さんちの空き地	Wakaba
	▪ 春のお楽しみ会 鼓組演奏と和太鼓体験	3/24	八千代市勝田台南小学校	八千代
	▪ 放課後子ども教室「出会い体験夢ひろば」休日体験	3/24	四街道地区コミュニティーセンター	四街道
	▪ 3・4・5年生の春の宿泊体験	3/25～26	八千代市少年自然の家	八千代
	▪ 春の風まつり	4/4	船橋市天沼弁天池公園広場	船橋
	▪ こどもまつり	4/29	佐倉城址公園	佐倉
	▪ 公園での遊び支援「放課後どきどきユニット」	毎週月	千葉市西都賀第一公園	Wakaba
	講演会・学習会	▪ おとなワークショップ うまれるってステキふしぎ	2/6	野田市総合福祉会館3F
▪ 永野むつみ 子育てトークライブ		2/9	市川市行徳公民館	市川行徳
▪ 子どものなぜにこたえる性教育		2/13	野田市総合福祉会館3F	野田
▪ 子ども親も幸せになれる「子育て」「親育ち」 ～試して失敗して感じる体験～		2/14	市川市勤労福祉センター大会議室	市川中央
▪ 永野むつみ講演会「言葉より語るもの ～感動すること育つこと～」		2/15	市川市東部公民館	市川北
▪ ファーブル ダンスワーク		2/20・27.3/6・13・14	佐倉市内	佐倉
▪ サークル自主活動「いのちの講座」	2/27	流山市内公民館	流山	
高学年の活動	▪ メビウス「おかしづくり～シフォンケーキ」	2/14	船橋市東部公民館	船橋
	▪ 第7回成人を祝う会	2/21	鎌ヶ谷市中央公民館	鎌ヶ谷
	▪ 高学年交流「春の合宿」	2/26～27	手賀の丘少年自然の家	流山
	▪ クッキング	3/6	印西市内	いんざい
	▪ 春合宿	3/20	東金青年の家	緑区子どもS・C
	▪ 中学・高校・青年北総地区春の交流会	3/26～28	茨城県あすなの里	船橋

子どもと文化 イベント情報

- ◆ **永野むつみさん子育てトクライブ**
2月9日(火) 10:30~12:00
場所:市川市行徳公民館 和室
料金:800円 要事前申し込み
主催/(特)市川子ども文化ステーション行徳地区
Tel. 047-395-7670
- ◆ **荒馬座の太鼓体験**
嘶そう踊ろう芸能ひろば
2月14日(日) 14:00~
場所:千葉市美浜文化ホールハルハル室
料金:大人1,500円、こども1,300円
(当日は200円増し)
主催/千葉西おやこ劇場
Tel. 043-272-1416
- ◆ **高尾晃市お兄さんの**
にこにこマジック
~八千代市1%支援事業~
3月7日(日) 14:00~14:40
場所:八千代市総合生涯学習プラザ
料金:親子で2,500円
主催/(特)子どもネット八千代
Tel. 047-486-4699
- ◆ **幼児のはじめてのジャズライブ**
ピアノ:ジャズピアニスト河野康弘
~八千代市1%支援事業~
2月13日(土) 14:00~14:40
場所:アースメイト
料金:親子で2,500円
主催/(特)子どもネット八千代
Tel. 047-486-4699
- ◆ **永野むつみさん講演会**
「言葉より語るもの
~感動すること・育つこと~
2月15日(月) 10:15~12:00
場所:市川市東部公民館
料金:500円
主催/(特)市川子ども文化ステーション北地区
Tel. 047-339-7744
- ◆ **しろい人形劇まつり**
アチャコ人形劇ひらけ夢ライブ 2009など
3月20日(土) 13:00~15:30
場所:白井市保健福祉センター
料金:200円
申込み先/白井子ども劇場 新井
Tel. 047-491-3595
- ◆ **大人のValentine jazz live**
ピアノ:ジャズピアニスト河野康弘
2月13日(土) 19:00~20:30
場所:アースメイト
料金:2,500円 (ワンドリツつき)
主催/(特)子どもネット八千代
Tel. 047-486-4699
- ◆ **アチャコ - パンの演劇体験**
「にこにこ山はたいへんだ!」
2月21日(日) 13:00
場所:船橋市浜町公民館 講堂
料金:ひとり1,000円 2歳~小2までの親子
主催/(特)船橋子ども劇場
Tel. 047-424-0851
- ◆ **子育て応援シアター2009**
クワカクのソータイム YEN TOWN FOOLS
4月18日(日) 11:00
場所:鎌ヶ谷市総合福祉保健センター大会議室
料金:親子1,500円(大人1人+子どもの人数不問)
主催/鎌ヶ谷おやこ劇場
Tel. 047-412-0234
- ◆ **赤ちゃんからの権利条約を学ぶ**
『子ども親も幸せになれる「子育て」「親
育ち」~試して失敗して感じる体験~』
講師:塩川寿平さん(大中里保育園園長)
2月14日(日) 10:00~12:00
場所:市川市勤労福祉センター大会議室
料金:乳幼児の親500円
子育て支援関係者1,000円(託児あり(先着15人))
主催/(特)市川子ども文化ステーション
Tel. 047-376-0813
- ◆ **お菓子でマイハウスづくり**
~高学年の子どもによる審査と表彰~
2月28日(日) 10:00~, 12:30~, 14:30~
場所:印西市そうひげ公民館
料金:未定
主催/(特)いんざい子ども劇場
Tel. 0476-46-6287
- ◆ **佐倉城址公園でこどもまつり**
子どもによる模擬店、小麦粉バクッ合戦他
4月29日(祝) 10:00~15:00
場所:佐倉城址公園
料金:未定
主催/(特)佐倉こどもステーション
Tel. 043-487-1655

※(特)は特定非営利活動法人を略しています
※参加申込、場所、参加費、時間等の問合せは
各主催団体をお願いします。

●	団体名	Tel.	●	団体名	Tel.
●	NPO法人 野田子ども劇場	04-7124-8419	●	NPO法人 子どもプラザ成田	0476-29-1387
●	NPO法人 流山おやこ劇場	04-7152-0446	●	千葉西おやこ劇場	043-272-1416
●	NPO法人 市川子ども文化ステーション	047-395-7670	●	NPO法人 こどもユニットWakaba	043-255-1045
●	NPO法人 市川子ども文化ステーション中央地区	047-376-0813	●	千葉北おやこみるあそび会	043-241-1142
●	NPO法人 市川子ども文化ステーション北地区	047-339-7744	●	NPO法人 緑区子どもサポートセンター	043-295-4150
●	NPO法人 市川子ども文化ステーション行徳地区	047-395-7670	●	NPO法人 千葉中央おやこ劇場	043-251-0142
●	NPO法人 子どもとまつど	047-386-9154	●	NPO法人 四街道こどもネットワーク	043-423-5381
●	浦安子ども劇場	080-6651-9175	●	やちまたおやこ劇場	043-444-6462
●	NPO法人 船橋子ども劇場	047-424-0851	●	長生茂原おやこ劇場	0475-22-3000
●	NPO法人 ならしの子ども劇場	047-451-3676	●	NPO法人 子どもるーぶ袖ヶ浦	0438-63-2850
●	鎌ヶ谷おやこ劇場	047-412-0234	●	寺子屋びーだま	0470-44-5828
●	白井子ども劇場	047-491-2163	●	NPO法人 いちかわ市民文化ネットワーク	047-339-7809
●	NPO法人 NPO佐倉こどもステーション	043-487-1655	●	NPO法人 子育てネットワークゆっくく	04-7129-8089
●	NPO法人 子どもネット八千代	047-486-4699	●	NPO法人 里山会	047-482-4613
●	NPO法人 いんざい子ども劇場	0476-46-6287	●	千葉県子ども核廃	047-457-2065
			●	NPO法人 子ども劇場千葉県センター	043-301-7262